

令和7年度 新栄高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

○課題・目標別実施結果

取組課題	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識(法令の遵守・服務規律の徹底)の向上	法令順守意識を持って、生徒・保護者の信頼に応える教育を実現する。	事故事例を基にした啓発資料を活用して不祥事防止研修会を毎月実施し、事例分析や対応策の共有を行った。その成果として、職員の不祥事防止に対する理解と意識が着実に高まり、組織全体の再発防止体制の強化につながった。
職場のハラスメント(パワハラ、セクハラ等)の防止	職員一人ひとりが人権に配慮した言動を意識し、パワハラ、セクハラ等の行為の未然防止に取り組み、職場のハラスメント行為を未然に防ぐ。	職員一人ひとりが人権に配慮した言動を意識し、パワハラ・セクハラ等のハラスメント行為を未然に防ぐという目標のもと、情報収集を心がけながら事故防止体制の構築に努めた。また、職員同士が情報交換しやすい職場の雰囲気づくりを進めるとともに、支援学校の職員を招いた人権研修会を実施し、人権に配慮した言動への意識向上を図ったことで、組織全体のハラスメント防止に対する感度を高めることができた。
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりが人権感覚を磨き、わいせつ・セクハラ行為を未然に防止する。	職員一人ひとりが人権感覚を涵養し、わいせつ行為及びセクハラ等の不祥事を未然に防止することを目標として取組を進めた。動画等を用いた事故不祥事防止研修会を実施し、生徒の将来に与える深刻な影響並びに県民の信頼失墜につながる重大性について繰り返し周知した。その結果、職員全体における人権配慮及び不祥事防止に関する意識の向上が図られた。
体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、体罰、不適切な指導を未然に防止する。	生徒の人権を尊重し、体罰及び不適切な指導の未然防止を図ることを目標として取組を進めた。具体的な事例を基に、適切な指導の在り方について職員間で共有を行い、共通理解の深化に努めた。その結果職員の認識が高まり、指導における人権尊重の視点が一層強化された。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜業務マニュアルに基づき、採点・点検等における業務を複数で確実に実施し、事故防止の徹底を図る。	入学者選抜業務マニュアルに則り、採点・点検等の各業務について複数名による確認体制を徹底した。全職員が同マニュアルに基づき厳正かつ着実に業務を遂行した結果、事故等の発生もなく、入学者選抜業務を適切に完了することができた。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報保護及び情報セキュリティへの理解を深め、不祥事を防止する。	個人情報保護及び情報セキュリティに関する理解を深め、不祥事防止を図ることを目標として取組を進めた。成績処理の正確性と点検の徹底、指導要録の適切な記載、調査書の整合性及び個人情報管理の視点を踏まえて各業務を遂行した結果、誤記載や事故を生じることなく適正に処理することができた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の順守を徹底し、交通事故・交通違反、酒酔い・酒気帯び運転を未然に防止する。	交通法規の遵守徹底による交通事故・交通違反等の未然防止を目標に、啓発資料を配付して職員への注意喚起を行った結果、交通違反や交通事故を発生させることなく、安全管理に努めることができた。
業務執行体制の確保等(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)	働き方改革の視点を常に持ち、組織として計画的で効率的な業務の推進を図る。	働き方改革の視点をもち、組織として計画的かつ効率的な業務推進を図ることを目標に、職場環境の見直しや業務精選、業務移管の検討を進めたが、一部職員に長時間労働が見受けられた。
財務事務等の適正執行	私費会計処理上の事故・不祥事を未然に防止する。	私費会計処理上の事故・不祥事を未然に防止することを目標に、私費会計基準に則って会計ごとの指導を重ねるとともに、監査での指摘事項を反映させ、適正な会計執行を推進した結果、転退学者への返金手続の確実性が向上した。

○令和7年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題

令和7年度は、各種研修の実施、マニュアルに基づく業務運用、情報共有体制の強化等を通して不祥事防止に向けた組織的な取組を推進した。事例に基づく研修による人権意識の向上、個人情報保護体制の改善、会計処理の適正化、交通法規遵守の徹底、働き方改革を踏まえた業務改善など、多方面において一定の成果が認められ、重大な不祥事や事故の発生を防止することができた。

不祥事の未然防止、早期発見及び再発防止の観点から、組織として以下の点を重点的に推進する必要がある。

- 人権意識と服務規律意識の向上に向け、継続的な研修と指導體制の強化を図ること。
- 情報共有を徹底し、複数の視点による点検を通じて不適切行為の兆候を早期に把握する体制を整えること。
- 不祥事発生時の検証結果を共有し、再発防止策を確実に運用する仕組みを構築すること。
- 会計処理、個人情報管理、指導・評価等のリスクを洗い出し、手順の明確化と点検の徹底を図ること。